



滋賀県

レイカディア大学

米原校 サポート隊通信



＜レイカディア大学 42 期生募集特集＞

2019 年（平成 31 年）4 月 15 日発行 第 15 号



大学祭での余興



古刹での整定実習

広がる趣味の輪
知識の修得

充実した日々を送る



ニュースポーツ大会

人の和は
ボランティアの輪



乙女浜老人憩いの家
にて楽しく軽音楽



大学祭での成果の展示

シニアの学び舎で仲間と出会おう！

6 月の新入学生の募集に向けて、レイカディア大学をもっと広く、認知してもらうための取り組みが始動しました。この活動は 39 期の応募者数の減少（38 期の全学科 62 人の応募者数に対して、39 期は 42 人に激減、実に 32% の減少です）を憂慮して、3 年前にサポート隊内に学生募集プロジェクトが組織されました。翌年に募集に向けて活動した結果、65 人の応募者がありました。実に 54% の V 字回復達成です。

学生募集プロジェクトの責任者、

中川幸治リーダー（38 期）はこの取組に向けて次のように熱い思いを語っています。

「今年で学生の募集プロジェクトは 3 年目を迎え、定員にはまだ充足出来ていない状況です。各地域にプロジェクトチームを結成し、12 市町の行政機関・社会福祉協議会・約 20 の地域のマスメディアの協力を戴き、併せて同窓会 5 支部の会員方や在校生・サポート隊による個別勧誘を徹底してやって行きたいと思います。また、今年は草津校と連携して、県の行政機関にも働き掛け知名度アップに繋げていきたいと考えております。

レイカディア大学はシニアの学び舎であると共に最大の収穫は、多くの人と出会い感動を得ることです。閑暇に過ぎしがちな老後を豊かで新しい生甲斐を見つけ、楽しい日々を送ることがなによりです。この楽しい、素晴らしい機会を得ることができるのがレイカディア大学です。ぜひこの機会に親戚、知人、友人等に呼び掛け 1 人でも多くの方が入学されることを期待し PR 活動に励みたいと思います」

中川リーダーは

- ①レイカディア大学の地名度向上に努めること
- ②応募者の志望動機が卒業生や知人による入学の勧めが 50%以上あることから、人にレイカディアを紹介することが大切と力説します。

活動は在学生、5 支部の同窓会員（874 名）、サポート隊（88 名）の総員が繰り出して行動することを期待しています。シニアの集まりで活動する人たちに紹介することも応募の確度が高いと思われます。自分の周りの人に声掛けして、入学を勧めていただきたいと切にお願いします。

新たな出会い・新たな学び～41期新入生の思い～

◇園芸学科

人生 100 年時代と言われている昨今、セカンドライフを生きいきとしたものにするためには私自身何ができるか又、一緒に活動する仲間を作り、光り輝くシニア時代を切り拓くヒントを与えてくれる学び舎だと思います。果樹や野菜作り、樹木の育て方、剪定

方法を教えて頂けることが楽しみです。卒業までには園芸全般な知識が習得できれば良いと思っています。



実際枝を使って剪定の講義

◇北近江文化学科

同級生と接してただ『楽しい』の一言です。なぜなら、この年齢になって新しい仲間ができることを想定していなかったからです。

中山道の宿場を歩くという共通の目的のもと、地元にながら知らなかった話や、昔、聞いたことがある

鳥居本宿を訪問



話の内容を再認識した模様を仲間と談笑することは本当に楽しい。仲間と共に学習できることを励みに、がんばっていききたいと思います。

◇健康づくり学科

退職後の健康維持と何かはじめたいなあとの思いからレイカディア大学に入りました。健康づくりの基礎知識、体力維持の運動、身体に良い食事の調理実習、クラフト製作等楽しく学んでいます。学生生活に慣れた今は、「笑顔で健康づくりを楽しもう」との方針も

考え付きました。個性豊かな仲間に恵まれこれからの学生生活に身も心もウキウキしています。



健康ブーメランの体操

学びを深める～40期生課題学習の取組み～

「高源寺プロジェクト6」 園芸学科の取組

40 期園芸学科の 25 名は 4 班を構成し、その内のひとつ、愛知・犬上郡在住の 6 人で構成する「高源寺プロジェクト 6」です。多賀町檜崎にある古刹「高源寺」において、その庭園整備に関わることで剪定等の知識を実践につなげ



果敢に松に挑戦

ることを課題学習のテーマとし、先ず「参道の松の剪定」と「竹穂垣の整備」を行いました。どちらも同期の仲間の応援とレイ大 OB のサポートのおかげで完成することができました。



竹穂垣も上手にできた

引き続き「木製ベンチの製作」や「紫陽花の植樹」等に取り掛かる予定です。広大な寺域の景観を地域と調和したきれいな状況に維持し、訪れる人に安息の場を提供することができ、寺に対しては護持に協力できると自負しています。

レイ大に入学したことで出会いが生まれ、その出会いが学びをつくり、ボランティア活動につながりました。得意なことを生かして誰かに喜んでもらえる、何かの役に立つ、この成功体験が人生を豊かにしてくれると確信し、今後も仲間と共に活動が続けて行きたいと思っています。

「滋賀は文化の宝箱！」 北近江文化学科の取組



見塔寺の住職から話を聞く

滋賀は古来、都に上る道筋として多くの文化的な遺産が伝わり花開いて来ました。又、戦国時代以降は天下統一をもくろんだ武将たちが戦い、城を築き、流通経済を発展させてきました。私たち北近江文化学科ではそんな滋賀の素晴らしい足跡を辿って今につながる「宝物」を見つけようと学んでいます。

今までに、『歴史』『民俗学』『文学』などフィールドワークを含め、どれも興味深い学びがありました。

今、それらを通して、更に追求したいもの、視点を変え調査したいものなどを課題学習としてまとめあげようとしています。

17 名が 4 つのグループに分かれて、「北国脇往還」・「多景島」・「保内商人」・「近江の災禍」について学習を深めています。今まさに取り組みの真最中で、この冊子が出る頃には集大成が完成しつつある頃です。資料を調べながら意見を交わしあう様子はさながら学生時代に帰ったようなわくわく感でいっぱいです。



八風峠を越えてしばし休憩

「楽しく・力強く・しなやかに」 健康づくり学科の取組

「健康寿命の延伸を図ろう」をテーマに、二つの課題を立案して、学習の実行は全員で実践しています。その一つ『体力測定と施設訪問を通じてボランティア活動を実感する』を紹介します。

『体力測定』は、東近江市健康福祉部の中嶋理学療法士と聖泉大学の多胡先生の監修のもとに「体力づくりの指導と測定」を能登川地区川南町老人クラブと林町老人クラブを対象に進めています。



林町での体力測定



清水苑の庭園づくり

既に、1月に両クラブとも第1回を実施して各14名の参加者と交流を図りました。今後も3カ月単位でフォローアップして指導の効果を確認していく予定です。

『施設訪問』は、東近江市五箇荘地区の「特養老：

清水苑」の“庭園づくり”（花と野菜の植栽）を11月に実施しました。また、同地区の「養老：きぬがさ」の“子ども食堂クリスマス会”（12月末）に参画し、サンタに扮し紙芝居やクリスマスソングなどの芸を披露し、子供さん41名と親御さんやスタッフを入れて80名で楽しみました。

この時点で得られたことは、活動を起こしたことによる「喜び」です。地域の人と良好な関係が築け、貢献できたことに喜びを感じ、施設を訪問すれば、入居者とのふれ合いに感動し、子ども食堂では子どもの笑顔に喜びを感じました。この喜びがあるからこそばねにして、次の活動に邁進していけることができます。

養老「きぬがさ」での子ども食堂のクリスマス会



六林坊グループ「教林坊の整備」

課題学習をそのまま継続して活動している案件です。6人で構成する六林坊グループの責任者である水原弥一さんが住職と協議して、最初に本堂の敷地周りの竹垣（建仁寺垣風）を新しく建て直し、その後、住職が念願であった教林坊垣を庫裏入り口の表門からの導入路に復活させるというものです。



水原さんは「この竹垣造りが一番苦労した。専門書を参考に、サザンカの生け垣との景観との兼ね合いを考慮し、試作品を造って設置する等の試行錯誤を重ねてやっと完成した。大変感動をした」とのことです。



整備作業には在学中から、サザンカ、サツキ、ツツジの剪定に大勢が応援しています。住職も大変頼りにしているのは、この寺が天台宗、観音正寺の塔頭の一つであるが、檀家がなく、寺を維持する人手がないからです。今後も続く予定のレイカ卒業生が仕掛ける長大な竹垣の製作、庭の樹々の管理等の作業は要員の応援が必要になっています。以前、寺が荒れ放題の状態を孤軍奮闘して修繕に取り掛かった時の応援者や住職の親が務める寺の門徒に呼び掛ける等、庭の保全に参画してくれる人を確保することが急がれます。

よし笛アンサンブル・マイレイカ

米原公民館でサークル「よし笛アンサンブル・マイレイカ」がよし笛の練習をしていると聞き訪ねました。2月7日、すでに会場ではよし笛の練習の最中で快い音色が響いていました。

レイカ32期・北村哲雄さんが指導し、当日は女性24人が参加して、練習最後の曲は「今日の日はさようなら」でした。よし笛を始めて今年でちょうど10年目との事。メンバーは近江八幡市から湖北の余呉までと広範に渡り、34名が加入している。月二回の練習、米原公民館でのロビーコンサート、各老人養護施設、レイカ大文化祭、長浜音楽祭と幅広く活躍しています。また、全員の演奏会だけではなく、各地域の仲間達で幾つかのグループをつくり、頼まれるとグループ単位でも出かけ演奏しています。

訪問した私も在校時によし笛を購入して練習しま

した。特に高音は出しやすく音色もすばらしい。低音域には練習が必要で「ド」は特に出しにくい。下手は下手なりに楽しめるのがよし笛の魅力です。参加者は清々しい気持ちと喜びと楽器を演奏して人を楽しくする生きがいを持っていました。どうですか、興味のある人は参加されてはいかがでしょうか。（三俣）



《編集後記》2月14日サポート隊支援のパワーポイント講習会が開かれた。「初めての人は手を挙げて下さい」と講師役の三俣部会長が会場を見渡すと、35名の受講者の内、十数名の人が手を挙げた。

わたくし達の年代はややもすると、今さら新しいことへの挑戦はできうれば無しで済ましたいと思う。億劫なことは先送りしたい。それがどうでしょう、この旺盛な向上意欲に頭が下がる思いである。自身を叱咤激励された思いがした。

サポート隊通信 2019年(平成31年)4月15日第15号

発行：滋賀県レイカディア大学

米原校サポート隊(広報・情報部会)

□ 米原市下多良2-137(県立文化産業交流会館)

滋賀県レイカディア大学米原校内

□ 電話：0749-52-5110

□ HP：<http://lacamaibara.com>